令和　3　年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0572007839		
法人名	医療法人　寿光会		
事業所名	ぐるーぷほーむ「こさか」		
所在地	秋田県鹿角郡小坂町小坂字上前田16-11		
自己評価作成日	令和3年7月25日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/05/index.php

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人　秋田県社会福祉事業団
所在地	秋田市御所野下堤五丁目1番地の1
訪問調査日	令和3年9月16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

毎月、小さな目標を立てて穏やかで楽しい、笑顔のある一日が過ごせるように職員皆が同じ方向に向かって努めております。コロナで外出や、面会制限をしておりますが、そんな中でも家族との繋がりが薄れないように、リモートや、窓越しでの面会をして頂くようにお声がけしております。又、毎月1回入居者様の様子を各居室担当者がお手紙を書いて写真を添えてお伝えしております。地域の方と入居者様との関わりの時間は取れなくなっておりますが、職員が行事に参加したり、ホームの行事の時には、間接的ではありますが、ご協力をお願いしたりして交流しております。近所の保育園の子供達が窓越しにお顔を見せ下さり、コロナ禍であっても地域の方には温かく見守りして頂いております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

起床や朝食の時間に縛られることなく、利用者一人ひとりの生活リズムを大切に、ゆとりある介護を実践している。家庭にいるような雰囲気が味わえるよう、職員はさりげない声掛けを心がけ、利用者がどのように感じているかを常に考えながらサービス提供に努めている。体調の変化があれば法人内の医院の医師や看護師に相談することができ、医療連携体制も整っている。災害対策面では緊急時の対応(BCP発動基準、行動基準、対応体制など)が災害対策に関する手引書として整えられている。家族にはラインを活用したテレビ電話面会の実施や毎月写真や手紙を送るなどホーム側から情報を発信し、制限される中でもつながりが途絶えないよう努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)　※項目№1～53で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
54	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)		1. ほぼ全ての利用者の
		○	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
55	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
56	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
57	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
58	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
		○	4. ほとんどいない
59	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
61	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)		1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
62	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
63	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
64	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)		1. ほぼ全ての職員が
		○	2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
65	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
66	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	繋げています。理念に元づいて毎月の目標を決めて、安らげる生活の場で有るように努めています。	理念に基づき、「一日一笑」という大目標を掲げ、皆が見えるところに貼り出している。また、毎月の具体的目標を決めて、職員の意識づけが図られるよう貼り出すとともに、ミーティングでも振り返りながら理念の共有と実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナで地域との繋がりが薄れてきているが、近所の保育園の子供さん達が、窓越しに顔を見せてくれたりする。　自治会に入会しており、職員が町内の掃除や、行事に参加しています。	コロナ禍の影響で地域のお祭りは中止となったが、近所の保育園の子どもたちとの窓越しの交流や職員が地域の掃除などに参加することで、今できる地域とのつきあいを大切にしている。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	コロナの為、運営推進会議で状況報告するくらいしかできでいないです。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナで何もできていないのが現状です。運営推進会議で活動内容を報告するくらいしかできていません。	運営推進会議は地域の自治会館をお借りし、民生委員や役場職員の参加の下、少人数で行っている。家族の参加はコロナ感染予防のため見合わせている。現在はホーム内の報告やコロナワクチンの情報交換が中心となっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	入居者様の様子や、活動報告は運営推進会議で報告しています。外部評価の結果も報告や、何かあれば、包括へ報告したり、相談させて頂いています。	役場職員は細かいことにも答えてくれ、頼りになる存在とのこと。ホームの様子も報告するよう努めており、入居前の利用者の様子や家の情報、コロナウイルスに関する助成金の情報なども得ることができ、良好な関係が築けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は行っていない。転倒事故防止の為、居室内にセンサーを設置している方については、ご家族に同意を頂いています。	立ち上がりが不安定で転倒の危険性のある利用者には、家族から了解を得てセンサーを使用している。家庭的な生活を目標にしているため玄関の施錠はしない、言葉遣いにも配慮するようスピーチロックの研修で振り返りを行うなど身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	虐待の勉強会を行っている。入居者様の日々の様子を申し送りで報告し合い、職員のストレスに綱がらないように情報を共有しあっています。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	前は研修に参加できていたが、コロナ禍で制限されている為、学ぶ機会が少ないのが現状です。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	その都度分からない事があれば聞いて頂けるようにしています。		
10	（6）	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や、ご家族の面会時に意見を伺ったりしています。玄関に意見箱を設置しています。	以前は家族の面会時に意見を聞くよう心掛けていたが、面会の回数が少なくなったことで意見を伺う機会が減っている現状とのこと。そんな中でもラインを活用したテレビ電話面会の実施や毎月写真や手紙を送るなどホーム側から情報を発信し、家族の要望があれば応えられるよう努めている。	
11	（7）	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングなどで話し合い、何かあれば上に相談させて頂いています。	廊下へのエアコン設置や草刈りなど環境面での整備、勤務の調整といった部分も意見が通りやすく、職員・管理者・法人の連携が図られている。職員が手薄な時には法人内で協力し合う体制が整っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアパスで向上心を持って頂けるように整備している。　職員の努力を常に上に伝えています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、代表者自身や管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナ禍で研修参加にも制限があり、何もできていませんでしたが、オンライン研修に参加出来るように環境を整えて頂いております。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍で交流できていなかったが、最近は少しずつ参加できるようになってきています。　地域のケアマネジャー会議等にも参加出来るようになっています。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者の好きなことや笑顔、できる力を引き出しながら、安心できる関係づくりに努めている。入所間もない時には　マメにお声をかけるなど、不安に思わせないように、介護しています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の関係性を把握して、サービス利用に不安や葛藤を抱いている家族の気持ちを理解し、できる限り、家族の話を伺うように努めています。		
17		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お互いに共に過ごす時間が長くなると家族のように話して下さるようになるが、なるべく入居者様を尊重した生活が出来るように支援しています。		
18		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍で面会制限をかけさせて頂いており、窓越しでの面会や、リモートでの面会などの環境づくりしかしてないのが現状です。		
19	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	思うように外出出来ず、馴染みの場所や、人との面会もできていない状態です。	馴染みの床屋の利用も躊躇しなければならない中で、どのように馴染みの人や場所との関係を継続したら良いかを常に考え、病院の帰りに自宅の周りをドライブしたり、窓越しやラインでのテレビ電話面会を行ったりと、できる範囲での取組を実施している。	
20		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	座席の配慮をしたり、トラブルが起こらないように職員が間に入ったりしながら支援しています。		
21		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	何かあれば相談にのっている。 退居後もご家族とあった時は、情報を頂いたりしながら、相談にのりやすい環境に努めています。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
22	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の会話の中から、本人の思いに沿えるように努めている。又日常生活の行動からも理解できるように努めています。	外出する機会が少なくなったことで、利用者からの要望も少なくなってきたとのこと。それでも日常生活で感じ取った一人ひとりの思いを職員が申し送りノートなどを通して情報共有し、意向の把握に努めている。	
23		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい,これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前のケアマネジャーや、ご家族からの情報を頂き把握し理解するように努めています。		
24		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送りや、連絡ノート、職員皆さんからのその日の様子を聞くなどして現状にあったケアに努めています。		
25	(10)	○チームでつくる介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	居室担当を決めて意見を出し合い、ミーティング等で話し合い、ご家族様からも情報を頂きながら、何かあれば相談しながら介護計画を作成しています。	居室担当が中心となり利用者の様子をミーティングで伝え、さらに職員間で情報交換しながら話し合い、家族の意見も確認した上でケアマネジャーが介護計画を作成している。	
26		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ミーティングや連絡ノートに特変や気づきを書込み、職員間での情報を共有しながら計画の見直しに活かしています。		
27		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現在地域と入居者の関わりは出来ていない。その分職員が努力しています。		
28	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診はご家族の希望も聞きながら、支援している。変更がある時は、その都度相談しています。	希望により今まで受診していたかかりつけ医を継続される方、法人内の医院を利用される方と様々である。医療法人のため医療連携が取りやすく、家族の安心につながっている。また、かかりつけ薬局にも相談しやすく、アドバイスをもらったり一包化の対応を医師に伝えてくれたりと、協力し合える体制が整えられている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定期的に訪問する（医療連携契約）看護師に状態を報告している。 特変や受診時の助言も頂いています。		
30		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は医療関係者へ状態の確認、相談をさせて頂いています。 緊急時に対応出来るように総合病院との契約をしています。		
31	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時や、その都度のケアプランの説明時に今後についての相談をさせて頂いている。法人内に医院及び介護老人保健施設がある事から、ご家族様には法人としての取り組みを説明し連携をはかりながら対応させて頂いています。	看取りは行っていないが、体調の変化を法人内の医院の医師や看護師に相談し、家族とも話し合いをした上で重度化・終末期のあり方を検討している。	
32		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	コロナ禍で外部での研修参加はできていないが、内部での研修は行っています。		
33	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害訓練は消防立ち合いにて行う事ができたが、水害訓練に関しては今年はまだ行えていない。　地域の方の応援はコロナ感染防止の為、連絡網のみの訓練とさせて頂きました。	災害対策に関する手引書があり、緊急時の対応（BCP発動基準、行動基準、対応体制など）が整えられている。職員が全員女性であり、実際に使い慣れていない発電機を作動する訓練も行っていた。今後は水害訓練のシミュレーションも行う予定とのこと。	
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
34	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	他の入居者様に知られないようにプライバシーに関して言葉がけ等注意しています。	入居する際、家族に面会を控えてほしい方を聞き取るようにしている。業務外でも利用者の情報を漏らさないよう職員に周知している。夏の暑い時には居室にのれんをかけるなど、その都度利用者・家族と相談しながらプライバシーに配慮した対応に努めている。	
35		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	衣類や、おやつなど簡単な物に関しては、選んで頂いたりして自己決定を促しております。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人のペースで起床されて、遅めの朝食を摂られる方もおりますが、 体調を考慮し、お声がけをして休んで頂いたり、している方もおります。		
37		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自立できている方に関しては、自己決定していただいたり、お手伝いする場合であっても　なるべくご本人の希望の物を身につけて頂くように心がけています。		
38	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	茶碗拭きや、テーブル拭きなど出来る方には　手伝って頂き、一緒にできる環境を作っています。	地域の方が野菜を届けてくれることもあり、なるべく季節に合わせた食事を提供するよう心がけている。地元で採れたアカシアの天ぷらや山菜料理を献立に加えることもある。利用者にだまこ汁のだまこを丸めてもらうなど、できることは手伝ってもらいながら食事作りや片付けに取り組んでいる。	
39		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事はご本人に合わせて刻みや、トロミ、水分量も考慮しながら、支援させて頂いている。残された時はお声がけをし見守りさせて頂いていおります。		
40		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々にあった対応をさせて頂いています。 拒否が見られる時は、時間をずらして対応させて頂いています。		
41	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄時間に合わせた対応を職員間で共有しております。 オムツもご本人に合った物を使用していただいております。	立ち上がりに時間のかかる方には声かけをするが、あえて排泄時間を決めず、その方の排泄リズムに応じた対応に努めている。そのため、一人ひとりの排泄時間はまちまちであり、それぞれ細かく記録が取られ、個に応じた介護の実践がなされている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳酸菌が摂れるように、食事やおやつに取り入れております。水分量の制限をされている為、どうしても出ない方に関しては、医師と相談して整腸剤や、下剤を服用して頂いております。		
43	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	順番にお声がけさせて頂いています。 一人ひとりのタイミングに合わせ健康状態を最優先にして入って頂いている。	一人週2回入れるよう対応している。広い浴槽のため、なるべく一人で入浴できる工夫として、浴槽の真ん中に手すりを設置し、階段も3段にしたとのこと。階段に腰掛けながらお湯につかることもでき、安全に入浴を楽しめる環境を整えている。	
44		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜逆転にならないように日中の活動を促したり、テレビを観て頂き、眠くなってからお声をかけたりしています。		
45		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬で分からない事がある時は（医療連携）看護師に確認したり、かかりつけ医や、薬局へ相談したりして理解できるよう努めております。		
46		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物をたたんでもらったり、その方にあった作業をして頂いたり、レクリエーションを行っている。行事や、お弁当をとるなどして気分転換していただいております。		
47	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍で希望にそえていない事が多いが、ドライブに出掛けたり、人との接触を避けながら散歩をしたりしています。（病院受診は行っている。）	コロナ禍の影響で制限せざるを得ない状況ではあるが、通院後に自宅付近を回ったり、ドライブの回数を増やしたり、利用者の希望に沿って散歩に出かけたりしている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	所持はして頂いていない。コロナ禍の為、買い物への外出はできていない。　職員が代理購入させて頂いている。		
49		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	タブレットでのリモート通話や、毎日のご家族からの電話、月1回、ご本人の状況をお手紙と写真で報告させて頂いている。		
50	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、臭い、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	空気清浄機を活用し空気の汚れを取り除いたり、エアコンを上手に活用させていただいている。　季節を感じて頂くように入居者様の居室前の飾りを替えさせて頂いたりしながら、支援させて頂いています。	地域の老人会の方が作ってくれた吊るし雛や保育園の子どもたちが書いてくれた絵を掲示するなど、季節ごとの装飾が施されている。共用スペースは家庭的な設えで、自宅で過ごしているような雰囲気の感じられる空間となっている。	
51		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気に入った所で過ごせるように、廊下やホールにソファーを置いております。		
52	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅で使用されていた物をお持ちいただくようにご家族へご協力頂いております。	危険物の持ち込み以外特に制限はなく、仏壇・タンス・椅子・テレビなどなるべく自宅で使用していたものを持ち込んでもらっている。居室で電気ポットを使用している方もおり、安全面に十分配慮しながら見守りを行っている。	
53		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご自分で出来るところまでやって頂けるよう居室前の名札やトイレなどの掲示を分かりやすく工夫しています。		